



Attracting Tomorrow 

テクノロジーですべての人を幸福に



TDK公式サイト  
左の二次元コードより  
アクセスできます。



# TONHALLE ORCHESTER ZÜRICH

**Paavo Järvi**, Music Director  
Japan Tour 2023

チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団  
音楽監督・パーヴォ・ヤルヴィ

2023年 日本公演

# パーヴォ・ヤルヴィ指揮 チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団

2023年 日本公演

## Tonhalle - Orchester Zürich Paavo Järvi, Music Director

Japan Tour 2023

**10.16** 月 19:00 東京 サントリーホール  
October 16 Mon. 19:00 Tokyo Suntory Hall

### ベートーヴェン:「献堂式」序曲 Op.124

L. v. Beethoven: The Consecration of the House (overture), Op.124

### ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11 (ピアノ:ブルース・リウ)

F. Chopin: Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11

(Piano: Bruce Liu)

第1楽章:アレグロ・マエストーソ

1st Mov.: Allegro maestoso

第2楽章:ロマンス、ラルゲット

2nd Mov.: Romanze. Larghetto

第3楽章:ロンド、ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Rondo. Vivace

### ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 Op.68

J. Brahms: Symphony No.1 in C minor, Op.68

第1楽章:ウン・ポーコ・ソステヌート — アレグロ

1st Mov.: Un poco sostenuto — Allegro

第2楽章:アンダンテ・ソステヌート

2nd Mov.: Andante sostenuto

第3楽章:ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

3rd Mov.: Un poco allegretto e grazioso

第4楽章:アダージョ — ピウ・アンダンテ

4th Mov.: Adagio — Più andante

— アレグロ・ノン・トロポ・マ・コン・ブリオ

— Allegro non troppo ma con brio

**10.18** 水 19:00 東京 サントリーホール  
October 18 Wed. 19:00 Tokyo Suntory Hall

### ベートーヴェン:「献堂式」序曲 Op.124

L. v. Beethoven: The Consecration of the House (overture), Op.124

### ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18 (ピアノ:ブルース・リウ)

S. Rachmaninov: Piano Concerto No.2 in C minor, Op.18

(Piano: Bruce Liu)

第1楽章:モデラート

1st Mov.: Moderato

第2楽章:アダージョ・ソステヌート

2nd Mov.: Adagio sostenuto

第3楽章:アレグロ・スケルツァンド

3rd Mov.: Allegro scherzando

### ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 Op.67 「運命」

L. v. Beethoven: Symphony No.5 in C minor, Op.67

第1楽章:アレグロ・コン・ブリオ

1st Mov.: Allegro con brio

第2楽章:アンダンテ・コン・モート

2nd Mov.: Andante con moto

第3楽章:アレグロ

3rd Mov.: Allegro

第4楽章:アレグロ

4th Mov.: Allegro

TDK Rising Stars Program 2023

学生サポートパートナー

主催:ジャパン・アーツ

後援:在日スイス大使館、カナダ大使館

協力:ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル、  
ユニバーサル ミュージック、ナクソス・ジャパン

パーヴォ・ヤルヴィ指揮 チューリッヒ・トーンハレ 管弦楽団 2023日本公演	10月15日(日) 北九州	北九州ソレイユホール 主催:(公財)北九州市芸術文化振興財団 ★
	10月16日(月) 東京	サントリーホール 主催:ジャパン・アーツ ★
	10月18日(水) 東京	サントリーホール 主催:ジャパン・アーツ ★
	10月19日(木) 所沢	所沢市民文化センター ミューズアークホール 主催:(公財)所沢市文化振興事業団 ★
	10月20日(金) 富士	富士市文化会館 ロゼシアター 主催:(公財)富士市文化振興財団 ★
	10月21日(土) 大阪	ザ・シンフォニーホール 主催:ザ・シンフォニーホール ★ ★ピアノ:ブルース・リウ

## パーヴォ・ヤルヴィ(音楽監督)

Paavo Järvi, Music Director



© gaetan bally

エストニアのグラミー賞受賞指揮者パーヴォ・ヤルヴィは、今日最も著名な指揮者の一人として広く認められており、世界中の最も優れたオーケストラとの緊密なパートナーシップを継続している。彼は現在、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督、2004年からの長期に亘るドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の芸術監督、そしてエストニア祝祭管弦楽団の創業者・芸術監督を務めている。

これら常任の地位に加えて、客演指揮者としても人気が高く、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ロンドンのフィルハーモニア管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックと定期的に共演している。また、パリ管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、NHK交響楽団など、かつて音楽監督を務めた多くの楽団とも緊密な関係を維持している。

毎シーズンの締めくくりに行っている活動は、2011年に父親のネーメ・ヤルヴィと共に創立したエストニアのパルヌ音楽祭における1週間のコンサートとマスタークラスである。この音楽祭とその専任オーケストラであるエストニア祝祭管弦楽団の成功は、BBCプロムスやハンブルク・エルプフィルハーモ

ニーでの公演、日本と韓国へのツアー等、注目度の高い多数の招待へとつながった。

2019年にドイツ、オーパス・クラシックの「コンダクター・オブ・ザ・イヤー」に選出。ドイツのオーケストラ及び文化環境におけるドイツ・カンマーフィルとの芸術的功績を評価され、ラインガウ音楽賞を受賞した。また、エストニア国立交響楽団と録音したシベリウスのカンタータ集でグラミー賞を受賞。2015年にはグラモフォン誌(イギリス)とディアパソン誌(フランス)の双方から「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。さらには、フランスでの音楽への貢献を認められ、フランス共和国文化通信省より芸術文化勲章のコマンドゥールを授与。エストニア文化の熱心なサポーターである彼は、2013年にエストニア大統領からホワイト・スター勲章を授与され、2015年にはフィンランド人作曲家の作品を幅広い聴衆に届けた功績を認められシベリウス・メダルを授与された。

エストニアのタリン生まれ。タリン音楽院でパーカッションと指揮を学ぶ。1980年アメリカへ渡り、カーティス音楽院で学びながら、ロサンゼルス・フィルハーモニック・インスティテュートでレナード・バーンスタインに学んだ。

Paavo Järvi, Music Director



## チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団

Tonhalle-Orchester Zürich

チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団は、1868年に創設され、特に1895年に世界でもベストともいわれる音響効果を誇る新ホール(Tonhalle)が誕生してからは、スイスのドイツ語文化圏の音楽界で重要な役割を果たしてきた。

ハンス・ロスバウト、ルドルフ・ケンペ、ゲルト・アルブレヒト、クリストフ・エッシェンバッハなどの主要な首席指揮者たちは楽団に決定的な影響を及ぼし、また錚々たる客演指揮者たち(古くはベーム、フルトヴェングラー、クレンペラー、クーベリック、シュリーヒト、ワルターなど、最近ではブリュッヘン、デュトワ、ハイティンク、ヤノフスキ、ヤンソンス、ロジェストヴェンスキーなど)も楽団を大いに発展させた。

毎シーズン100を超えるコンサートで約50のプログラムを演奏を行っており、これまで演奏会を行った

都市は100都市を超える。

2019年10月よりパーヴォ・ヤルヴィがオーケストラ音楽監督・首席指揮者を務めており、その卓越した演奏で国際的に高く評価されている。

レコーディングも精力的に行っており、現在までに40枚以上のCDをリリースしている。パーヴォ・ヤルヴィとはチャイコフスキープロジェクトに力を注いでおり、好評を博した交響曲第5番に続き、チャイコフスキー交響曲全集第2弾が2021年4月にリリースされた(その後、全集が完結している)。

ジョン・アダムスの作品を収録した最新のCDは批評家から高い評価を受け、ディアパソン・ドール賞を受賞している。また、パーヴォ・ヤルヴィとの共演で、2022年欧州文化賞(Europäischer Kulturpreis)を受賞した。



© Gaetan-Bally

Tonhalle-Orchester Zürich



## ブルース・リウ (ピアノ)

Bruce Liu, Piano

2021年10月、第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝。最も権威あるこのコンクールの長い歴史の中で、史上初のカナダ人優勝者となり、世界の注目を集めた。2022年3月、ドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、ショパン・コンクールのライブ録音を収録したファースト・アルバムはフレデリック賞を受賞。グラモフォン誌のクリティックス・チョイスとエディターズ・チョイスにも選出され、「近年で最も傑出したショパン・リサイタルのひとつ」と評されるなど、国際的な賞賛を浴びた。

2023/24年シーズンは、ラインガウ音楽祭でのジャンンドレア・ノセダ指揮/サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ハリウッド・ボウルでのダニエル・バーソロミュー=ポイザー指揮/ロサンゼルス・フィルハーモニック、ヤニック・ネゼ=セガン指揮/フィラデルフィア管弦楽団及びメトロポリタン歌劇場管弦楽団との共演や、ドイツのキッシンジャー・ソマーへの出演を予定している。

さらに、アンドリュウ・マンゼ指揮/フィンランド放送交響楽団、パーヴォ・ヤルヴィ指揮/チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、北京NCPA管弦楽団、ユッカ=ペッカ=サラステ指揮/シンガポール交響楽団と共演。2024年2月には、サントゥ=マティアス・ロウヴァリの指揮でニューヨーク・フィルハーモニックにデビューする。

チューリッヒ・トーンハレ管のほか、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団との日本ツアーも予定されており、ロウヴァリ指揮/フィルハーモニア管弦楽団やミュンヘン室内管弦楽団とも共演する予定。また、フィルハーモニー・ド・パリ、フランクフルトの旧オペラ座、アムステルダム・コンセルトヘボウ、エッセンのフィルハーモニー、中国国家大劇院、上海シン

© Yanzhang

フォニーホール、深圳コンサートホール、チューリッヒのトーンハレ、ハンブルクのエルブフィルハーモニー、フライブルクのコンツェルトハウス、ケルンのフィルハーモニーなど、世界有数のコンサートホールでピアノ・リサイタルを行う。

「私達が共通して持っているものは、私達がみな違っているということです」とこの若きピアニストは言う。中国人の両親のもとパリに生まれ、モンリオールで育ったブルース・リウの人生は、常に文化的多様性の中にあつた。ヨーロッパの気品、中国の幾千年の伝統、北米のダイナミズムと開放性—それが彼の姿勢、人格、個性を形成してきた。楽観性と笑顔をもって芸術家の道程をたどりながら、リチャード・レイモンドに学び、現在はダン・タイ・ソンに師事している。

Bruce Liu, Piano



## 曲目解説

寺西 基之(音楽評論家) Motoyuki Teranishi

## 10.16

## ベートーヴェン:「献堂式」序曲 Op.124

ベートーヴェン(1770-1827)は晩年の1822年に、ウィーンのヨーゼフシュタット劇場の柿落としのために上演される劇作家カール・マイスルの新作の祝典劇のための劇音楽を依頼された。彼は序曲と合唱曲を新たに作曲し、1811年にペストのドイツ劇場の柿落としのために書いた旧作の「アテネの廃墟」から数曲を転用して、この祝典劇「献堂式」のための音楽が成立した。

新たに書き下ろされた序曲はいかにも献堂式に相応しい堂々たる曲で、厳かで壮麗なマエストロ・エ・ソステヌートの前半と、明朗な活気に満ちたアレグロ・コン・ブリオの後半からなる。

## ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11

ポーランド出身のショパン(1810-49)の作品はほとんどピアノ独奏曲で、本格的なピアノ協奏曲は2つしか残していない。しかも2曲とも彼がまだ母国ポーランドにいた初期の所産である。2曲のうち本日の第1番のほうがあとに書かれており、1829年に恋人を想って書いた第2番に引き続いて1830年(20歳)夏に完成された。第2番同様、ピアノの名技性を生かした書法のうちにもロマン的感情性と民俗的語法に基づく国民精神を打ち出している点が彼らしい。初演は1830年10月11日ワルシャワでショパン自身のピアノで行われた。

**第1楽章**(アレグロ・マエストロ)は力強い第1主題と甘美な第2主題を持つ協奏的ソナタ形式をとり、ピアニスティックな技巧が生かされる。**第2楽章**(ロマンス、ラルゲット)は静かでロマン的な美しさを持った緩徐楽章。**第3楽章**(ロンド、ヴィヴァーチェ)は民俗舞曲風の主題によるフィナーレで、独奏が鮮やかな名技性を発揮しつつ、軽快かつ華麗な発展を繰り返す。

## ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 Op.68

ブラームス(1833-97)は初期の1855年前後に初めての交響曲を構想したが、交響曲ジャンルでの先人ベートーヴェンの業績を強く意識していたことで、筆はなかなか進まなかった。長年模索を重ねた結果、交響曲第1番は最初の構想から約20年も経た1876年にやっと完成をみる。しかしブラームスはまだ出来に不満で、初演後1877年に第2楽章を大幅に改作し、これが決定稿となった。彼の交響曲処女作はこのように難産の末に生れたが、ベートーヴェン風の暗→明の構図による古典的論理性のうちに豊かなロマン的情緒を表現したこの作品には、彼が長年追い求めた自らの交響曲様式が見事に結実している。

**第1楽章**(ウン・ポーコ・ソステヌート～アレグロ)は緊迫した序奏に続き、闘争的な主部が劇的に展開する。**第2楽章**(アンダンテ・ソステヌート)は叙情に満ちた緩徐楽章。終りの部分では独奏ヴァイオリンとホルンが美しいデュエットを奏でる。**第3楽章**(ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ)は間奏風の楽章。**第4楽章**(アダージョ～ピウ・アンダンテ～アレグロ・ノン・トロポ・マ・コン・ブリオ)は不安な緊迫感の漂う序奏で始まり、霧を晴らすかのようなホルンの響きと荘重なコラールを経て、明朗な主部に入る。晴れやかで力強いフィナーレである。

## 10.18

## ベートーヴェン:「献堂式」序曲 Op.124

\* 前頁参照

## ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18

古今のピアノ協奏曲の中でも特に有名なこの作品は、ピアノの名技性とロマン的な表現のうちにロシアの民族精神を息づかせている点でいかにラフマニノフ(1873-1943)らしい名作である。作曲のきっかけは1899年に彼がピアニストとしてロンドンで成功を収めた際に当地の団体から依頼されたことにあった。しかし当時交響曲第1番の初演失敗に起因するスランプにあった彼は筆を進めることができなかった。それを救ったのが精神科医ダラー博士で、博士の暗示療法によって自信を回復したことで1901年に曲を完成にこぎつけた。

しかし最近このエピソードの信憑性に疑義を挟む研究者も出てきた。新説では、ラフマニノフが多少の精神的な不安定さからダラー博士の治療を受けたことはあったにしても、作曲が不可能なほどの重度のスランプにあったわけではなく、交響曲第1番の失敗も尾を引いていたわけではなかったという。

いずれにせよこの作品は1901年モスクワで自身の独奏で初演されて大成功を収め、作曲家としての彼の名声を確たるものとしたのだった。

**第1楽章**(モデラート)はピアノ独奏の重い和音による序奏の後、暗い情熱的な第1主題とロマン的な第2主題を持つ主部が劇的な発展を繰り返す。**第2楽章**(アダージョ・ソステヌート)は甘美さを湛えた静かな主部と感情の揺れをみせる中間部からなる。**第3楽章**(アレグロ・スケルツァンド)は力感に溢れる主要主題と表情豊かに息長く歌われる副主題が起伏ある展開を繰り返す。

## ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 Op.67「運命」

ベートーヴェン(1770-1827)は中期に18世紀の古典派様式を超える大規模なスタイルと大胆な書法による作風を打ち出したが、1808年完成のこの交響曲はその中期の代表作で、タタターの運命動機を中心とする闘争的性格と全体の暗→明の流れによって、苦悩の克服という理想主義的理念が表現されている。そうした理念の表現のためにこの作品には、例えば第1楽章での徹底した運命動機による構築法、運命動機を全曲に循環的に用いて全体の暗から明への流れを明確にする構成法、第3楽章と第4楽章をクレッシェンドで連続させて明への移行を際立たせる手法、第4楽章で勝利感を強調するために当時交響曲では前例がほとんどなかったトロンボーン、ピッコロ、コントラファゴットを用いていることなど、様々な革新的書法が工夫されている。

**第1楽章**(アレグロ・コン・ブリオ)は運命動機で構築された緊迫感に満ちたソナタ形式。**第2楽章**(アンダンテ・コン・モート)は優美な主題を持つ緩徐楽章で、変奏原理で自由に発展する。**第3楽章**(アレグロ)は運命動機を織り込んだスケルツォと明朗なトリオからなる。劇的な移行部分を経て勝利の**第4楽章**(アレグロ)に突入、再現部直前に苦悩を回想するかのように運命動機が示されるものの、全体は輝かしい高揚を示していく。

# Tonhalle - Orchester Zürich

Paavo Järvi, Music Director Japan Tour 2023

## 1st Violin

Julia Becker  
Andreas Janke  
George-Cosmin Banica  
Peter McGuire  
Thomas Garcia  
Elisabeth Harringer-Pignat  
Filipe Johnson  
Marc Luisoni  
Elizaveta Shnayder-Taub  
Alican Süner  
Sayaka Takeuchi  
Syuzanna Vardanyan  
Isabelle Weilbach-Lambelet  
Christopher Whiting  
Philipp Wollheim  
Yukiko Ishibashi

## 2nd Violin

Kilian Schneider  
Vanessa Szigeti  
Cornelia Angerhofer  
Noémie Rufer-Zumstein  
Aurélien Banziger  
Josef Gazsi  
Lucija Krišelj  
Enrico Filippo Maligno  
Amelia Maszonska  
Mari Parz  
Ulrike Schumann-Gloster  
Mio Yamamoto  
Christina Moser \*  
Jonas Moosmann #

## Viola

Gilad Karni  
Yu Sun  
Katja Fuchs  
Sarina Zickgraf  
Ewa Grzywna-Groblewska  
Johannes Gürth  
Richard Kessler  
Katarzyna Kitrasiewicz-Łosiewicz  
Antonia Siegers-Reid  
Michel Willi  
Andrea Wennberg  
Héctor Camara Ruiz

## Cello

Paul Handschke

Thomas Grossenbacher #  
Sasha Neustroev  
Benjamin Nyffenegger  
Christian Proske  
Gabriele Ardizzone  
Ioana Geangalau-Donoukaras  
Andreas Sami  
Mattia Zappa  
Guillermo Ortega #

## Double Bass

Frank Sanderell  
Ronald Dangel  
Peter Kosak  
Samuel Alcantara  
Gallus Burkard  
Oliver Corchia  
Ute Grewel  
Kamil Łosiewicz

## Flute

Sabine Poyé Morel  
Haika Lübcke  
Karin Binder #

## Oboe

Simon Fuchs  
Isaac Duarte  
Martin Frutiger  
Kaspar Zimmermann

## Clarinet

Michael Reid  
Alberto Culmone #  
Diego Baroni

## Bassoon

Matthias Racz  
Michael Von Schönermark  
Hans Agreda  
Geng Liang

## Horn

Ivo Gass  
Tobias Huber  
Karl Fässler  
Paulo Muñoz-Toledo

## Trumpet

Philippe Litzler

Heinz Saurer  
Jörg Hof  
Herbert Kistler

## Trombone

Seth Quistad  
Marco Rodrigues  
Bill Thomas

## Tuba

Christian Sauerlacher

## Timpani / Percussion

Christian Hartmann  
Benjamin Forster  
Andreas Berger  
Klaus Schwärzler

Paavo Järvi  
*Music Director*

Ilona Schmiel  
*Artistic Director*

Marc Barwisch  
*Head of Artistic Department*

Justus Bernau  
*Head of Finance*

Ambros Boesch  
*Head of Orchestra Management / HR*

Michaela Braun  
*Head of Marketing and Communication*

\* ad interim  
# substitute

The contents are subject to change.



Private  
Banking

HarrisonParrott as International Tour Management



【アーティストサポート】を通して、  
アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。  
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、  
引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

### <2023年度年間サポート>

F.A Y.A 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 河村はるみ K.K  
木村美明 M.K 小室秀夫 新貝康司 N.S M.S A.D 土屋涼子 ツールラブ真智子  
ツールラブ真凛 N.N 中島和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H M.H 藤野盾臣  
細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M S.Y  
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルト・ハウス・ジャパン by 株式会社キタマ  
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライフプラン株式会社 Heart of the Earth 株式会社  
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社  
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会 淡路

(匿名希望 22名)

### <館野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 一柳吉子 A.I 大谷恵美子 S.O 小畑裕子 木全恵美子 M.K  
黒川智恵美 黒住彰子 斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T  
田邊英利子 中村康江 K.H 羽生賢次 福島晶子 堀田高秀 松田純子 三上美智恵 光永育  
K.M 山家七恵 S.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子 館野泉ファンクラブ東京 日本セヴラック協会  
有限会社ムジカーザ NPO法人 Mプロジェクト

(匿名希望 14名)

### <ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜  
篠崎啓史 I.S T.S ツールラブ真智子 ツールラブ真凛 T.N 長谷部宏行 秦勝重  
T.H 林路郎 細沼康子 牧野佳那 松下泰之(マティビ) S.Y

(匿名希望 14名)

2023年9月30日現在 敬称略/匿名希望の方は記載しておりません

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの  
詳細はこちらを  
ご覧ください。

